

劇団文化座公演

作 杉浦久幸
演出 鵜山仁

命 ぬち 宝

出演 白幡大介

藤原章寛

青木和宣

佐々木愛

他



Established 1942.

劇団文化座

題字：本橋佳園

美術：乗峯雅寛 照明：古宮俊昭 音響：齋藤美佐男
 衣装：岸井克己 音楽：吉田さとる
 舞台監督：鳴海宏明 制作：中山博実

【出演】

白幡大介 姫地実加 藤原章寛 高橋未央
 津田二郎 青木和宣 米山実 沖永正志
 井田雄大 大山美咲 桑原泰 田中孝征
 早苗翔太郎 季山采加 小佐井修平 為永祐輔
 萩原佳央里 若林築未 阿部由奨 神野司 伊藤萌瑛夏
 佐々木愛



伊江島陳情團

四原則貫徹

伊江島陳情



命どろ宝

劇団文化座公演

戦後の沖縄復興と日本復帰に生涯をかけ闘い抜いた、瀬長亀次郎と阿波根昌鴻の不屈の魂がいま再び蘇る



〈阿波根昌鴻〉
白幡大介



写真：坂本正都



〈瀬長亀次郎〉
藤原章寛

「沖縄の人達は、なぜ座るのか？」

私が劇映画『沖縄』に出演するために、二度の渡航拒否を受けてから、もう五十年近くの歳月が流れました。三度目に申請に行った時の都庁の窓口の方の、私と後ろに並ぶ沖縄出身の学生さん達に対する対応は、今で言えばパワーハラスメントそのものでした。戦争に敗けたからとはいえ、沖縄の方々が戦勝国アメリカと祖国日本にいかにも不自由で理不尽な生活を強いられているか、その一端を肌で感じた忘れられない思い出です。

それ以後、沖縄は日本に復帰し、往来は自由になったとはいえ、限らない不自由を押しつけられている現状は昔と少しの変わりもありません。しかし、私にはこの不自由さと闘う沖縄の方々の中に、私達おおかたの日本人が失いかけている、日本という国の希望と誇りを強く感じる事があるのです。

そして、蘇ったのが阿波根昌鴻と瀬長亀次郎という突出した二人の人物でした。この二人と出逢っていただけたら、沖縄の方々が何故へこたれずに座り続けるのか？何を求めているのか？ほんの少しわかっていたいただける気がするのです。

企画・出演 佐々木愛



これまでの文化座公演 沖縄作品10本

- 1956年『ちぎられた縄』〈創立15周年記念〉
作：火野葦平 演出：佐佐木隆
- 1984年『海的一座』
作：謝名元慶福 演出：八木貞男
- 1988年『ハブの子タラー』
作：謝名元慶福 演出：小森安雄
- 1989年『花売り』
作：謝名元慶福 演出：入谷俊一
- 2001年『若夏に還らず』
原作：森口裕「最後の学徒兵」 脚本：堀江安夫
演出：佐々木雄二
- 2008年『月の真昼間 (まびる一ま)』
原作：森口裕「子乞い」 脚本：杉浦久幸
演出：原田一樹
- 2010年『銀の滴 降る降る まわりに 首里1945』
作：杉浦久幸 演出：黒岩亮
- 2012年『猿さんがゆく』〈創立70周年記念〉
作：杉浦久幸 演出：原田一樹
- 2017年『命どろ宝』〈創立75周年記念〉
作：杉浦久幸 演出：鶴山仁
- 2018年『太陽の棘』
原作：原田マハ 脚本：杉浦久幸 演出：田村孝裕